

みんなのた場

サ一フル 仲問 (95)

石巻絵本とおはなしの会

読み聞かせで広がる世界 子どもたちに想像する力を

子どもたちの豊かな心を育む「石巻絵本とおはなしの会」(豊原みどり代表・会員9人)は読書推進の一助を担う読み聞かせ等のボランティア活動に取り組む団体です。

平成7年から活動を始め、20年以上にわたって釜小学校で読み聞かせボランティアを続けています。発足当初は、昼休みの時間を利用しての読み聞かせでしたが、現在は1年生から6年生の各クラスで年2回ずつ国語の授業の中で実施しています。それらは子どもたちの「聴く力」や、集中

力を養い、本に親しむきっかけにもなっています。

不定期に市内の小学校での出前授業にも取り組み、読み聞かせのほか、本を見ないでストーリーを語る素話では、子どもたちに物語の魅力を伝えていきます。読書を通じて、同じ時間を過ごすことで「物語の世界」を共有できることが楽しみの一つです。

今では読み聞かせの授業を心待ちにしている児童も多く、豊原代表は「立ち上げた先輩方が子どもたちのために小学校とともに取り組んできたおかげです」と



▲例会では会員同士がアドバイスを送り合います



▲石巻絵本とおはなしの会のみなさん

活動を振り返ります。

このほか、毎月第2木曜日には市図書館の多目的室で一般の方も参加可能な例会を開催しています。会員が朗読や素話を披露するとともに、語り口調や話す速さ等のアドバイスを送り合います。本に描かれた世界を広く深く伝えるため一人一人がセリフに感情を込め、声の高さや表情を変えて場面を表現する練習に励んでいます。

これまでの取り組みが評価され、本年度「子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)」の文部科学大臣表彰を受賞しました。子どもの読書意欲を高めるために特色ある活動を実施している学校や図書館、団体および個人に対して贈られる賞です。

これからも読書を通じて地域の子どもたちと豊かな想像力を高めるため、会員の皆さんは発声や朗読等の読み聞かせに必要な技術向上に努めています。

文化財たんぽう (90)

「北上運河」が宮城県 遺跡台帳に登録されました

生涯学習課



▲北上運河と石井閘門

石巻市水押から東松島市鳴瀬川河口までの総延長13.9kmの北上運河のうち、定川(釜閘門)までの5.9kmを北上運河といひ、今春、新たに宮城県遺跡台帳に登録されました(東松島市では釜閘門から野蒜築港跡まで、すでに遺跡登録済み)。

この運河は、内務卿大久保利通を中心として推進された明治政府の近代化政策の一環として開削されました。当時の物資輸送手段の主流は船舶輸送でした。

そこで明治11年、野蒜に国際港湾の建設を計画し建設を進めました(野蒜築港計画)。あわせて北上川舟運による内陸の物資輸送との連携を図るために運河の開削に着工し、明治15年竣工しました。また北上運河と旧北上川との乗り入れを可能にするため、石井閘門も建設されました。運河開通後、石井閘門を通過して運河と川を航行する小型船は年間5,000隻以上あったともいわれています。

野蒜港は内港完成後、明治17年の台風被害等が原因で、以後の建設を中断してしまいました。運河を利用した舟運はその後、鉄道や道路網の整備によって衰退しましたが、北上運河と石



▲明神新橋から

いきいき

統計調査員として半世紀

業務の中で地域と交流



おもり またぬ 沼田盛夫さん(87)

北上地区

▲統計調査に関する記録を眺める沼田さん

沼田さんは50年近くの長きにわたり、統計調査員として堅実な仕事を重ねてきました。

業務に就くきっかけは、県職員だった30代後半のころ、調査員を務めていた近隣の男性から「自分の代わりをお願いしたい」と誘いを受けました。調査員が担う統計は、行政をはじめさまざまな資料の基本となる大切なデータですが、始めたころは正しい情報を教えてくれない世帯や事業所もあったとのこと。

それでも地域の人々と日頃から顔を合わせて親しく

井閘門は近代史、土木史上重要な歴史遺産として現代に伝えられています(石井閘門は平成14年国の重要文化財に指定)。

話すことで、統計の重要性を伝えるとともに、お互いの信頼の上での正確な調査ができるようになったといえます。調査期間外にも、統計に関係することは逐一記録にまとめる等、細やかに業務を行ってきました。

平成13年からは北上町統計協会の会長を務めており、これまでに手掛けたのは、27年度の国勢調査を含め87回にのぼります。昨年にはこうした功績が認められ、「農林業センサス功績者」として国から表彰状も贈られました。

調査員となり「地域を深く知り、交流できたことが一番の宝」と振り返ります。また、「これからも続けたい」と思えるのは、やはり仕事を楽しんできたからでしょうね」と笑顔を見せていました。

まちの話題

雄勝地区



7月3日(日)
おがつ店こ屋街

新鮮な海の幸が大人気 おがつ・夏・海鮮まつり

地元の新鮮な海産物をPRする「おがつ・夏・海鮮まつり」には、県内外から約1200人が訪れ、にぎわいました。朝採りのウニが格安で購入できる整理券は1千箱分用意しましたが、配布開始から1時間足らずで終了するほどの人気でした。また、殻付きホヤや海鮮丼等、地域自慢の味覚が勢ぞろいしたほか、伊達の黒船太鼓保存会による勇壮な演奏やマジックショー等がまつりを盛り上げました。

河北地区



6月1日(水)
仙台国際センター

じょうほん さと 上品の郷が 東北「道の駅」大賞受賞

150カ所の道の駅でつくる東北「道の駅」連絡会総会で、道の駅上品の郷が第3回大賞に選ばれました。設置自治体として事例発表した亀山紘市長は、震災時の対応や、市と災害時支援協定を結び全国のモデルになったこと等を紹介しました。また、休憩や情報発信の施設となっている点や、新鮮で安全安心な食材を常に提供し、地元生産者と消費者をつなぐ存在となっている点等も評価されました。

桃生地区



7月1日(金)
桃生公民館

たいきょくけん 太極拳で 健康づくり

桃生公民館主催の「楽しい太極拳教室」には、約20人が参加して基礎的な動作等を習得しました。ゆっくりした動きの太極拳は、男女や年齢を問わず楽しみ、心身ともに健康づくりを進めることができるため、健康志向の高まりとともに関心を抱く人たちも増えています。教室に参加した皆さんは、普段の生活ではあまり使うことのない筋肉を動かしながら、心地よい汗を流していました。

河南地区



6月23日(木)
前谷地

新しい駐在所が完成 地域に根差し治安維持へ

老朽化のため新しく建て替えられた石巻警察署前谷地駐在所の落成式が行われ、出席した石巻署や地元の皆さん等が地域の安全安心の新拠点の完成を祝いました。新駐在所には、執務室のほか新たに警察車両用の車庫、警察官の居住スペースも設けました。雁部隆之駐在所長は「誰もが安心して暮らせるまちづくりのために期待と信頼に応えられるよう努力します」と決意表明しました。

牡鹿地区



7月1日(金)
あじしらはま
網地白浜海水浴場

網地島での 笑顔創造プロジェクト

牡鹿中学校の生徒たちが、7月15日(金)の市営網地白浜海水浴場の海開きを前に清掃活動を行いました。4年前から同校が取り組んでいる「笑顔創造プロジェクト」の一環として実施したもので、清掃後には伝統芸能である「侍ソーラン」を島の住民に披露しました。海水浴場の開設期間は8月21日(日)までです。

北上地区



6月19日(日)
十三浜狐谷地 皿貝川

身近な自然に 触れてみよう

ヨシ原が広がる自然豊かな皿貝川で、サーフボードの上に立ち、川面を漕いで移動したり波に乗って楽しむスタンドアップパドルサーフィンの体験会が開かれました。大人、子ども7人が5艇のボードに交替で乗り、バランスを取ることから始めて座ったり膝立ち等の低い姿勢で練習を重ね、徐々にコツをつかんでいきました。終盤にはすっかり立ち漕ぎにも慣れ、素早くターンする光景も見られました。

石巻地区



6月26日(日)
むつしやま
牧山 零羊崎神社

優美に咲き誇る はなしょうぶ 花菖蒲3000株

「牧山あやめ祭り」の愛称で親しまれる零羊崎神社の一般開苑が6月20日(月)から7月3日(日)まで行われました。苑内には、「オキノカモメ」や「千代の春」等、約300種3千株もの花菖蒲が白、薄紫、黄、赤等さまざまな色で咲き誇り、市内外から訪れた大勢の人たちが楽しみました。休日は琴の演奏会もあり、優雅で心安らぐ空間を作り出していました。

石巻地区



6月2日(木)
住吉中学校

中学生が パパ、ママ体験

市は少子化対策の一環として、教育による地域の子育ての輪を広げようと、昨年度から中学生を対象にした「親になるための教育事業」を始めました。2年目の今年は13校の生徒たちが座学や妊婦ジャケットの着用体験等で育児について学んでいます。また、実際の親子とふれあう場も設けており、時には泣き出す乳幼児を相手に子育ての大変さと楽しみを味わう生徒たちの姿もありました。